

## 実践団体情報

|             |   |
|-------------|---|
| 記入日         | 西暦 2022 年 1 月 18 日 (2022 年度のチャレンジプラン)   |
| 実践団体名       | 糸魚川ジオパーク協議会   |
| 代表者名        | 会長 米田 徹   |
| プラン全体のタイトル  | 活火山の新潟焼山を知る！楽しむ！備える！プロジェクト<br>～ボトムアップの防災学習実践～   |
| 電話番号        | 025-552-1511  |
| メールアドレス     | <a href="mailto:geopark@city.itoigawa.lg.jp">geopark@city.itoigawa.lg.jp</a>                              |
| 実践団体の説明     | 新潟県糸魚川市は、フォッサマグナや国石ヒスイなど自然環境に恵まれ、2009年に日本で初めて世界ジオパークの一つに認定された、自然・文化資源を「調べる・守る・伝える」ことを目的としたジオパーク活動に取り組む団体。 |
| 所属メンバー      | 糸魚川市や新潟県など行政と地域の団体や事業者が参加している。  |
| 活動地域        | 新潟県糸魚川市を中心とした地域   |
| 活動開始時期・結成時期 | 2007年の日本ジオパーク認定前から活動  |
| 過去の活動履歴・受賞歴 | 2017年に世界ジオパーク再認定。出前講座や講演会、地域でのボトムアップ活動などを実施。  |

|          |   |
|----------|---|
| プラン全体の概要 | <p>糸魚川市にある新潟焼山は、2016年に小規模な噴火が発生した気象庁の常時観測火山である。学校や地域では、防災教育と避難訓練の一層の必要性が指摘されている。</p> <p>本プランでは、ボトムアップ活動として、児童生徒や地域住民が焼山について楽しみながら知る機会を設け、ハザードマップを利用した集落ごとのきめ細かいワークショップなど地域一体となった防災減災に繋げていく。</p> |
|----------|---|

## プランの年間活動記録

|     | プランの立案と調整                 | 活動準備                     | 実践活動                          |
|-----|---------------------------|--------------------------|-------------------------------|
| 4月  | 活動プラン全体について<br>内容検討       |                          |                               |
| 5月  | 活動プラン全体について<br>内容検討       | 山の特別展準備作業                |                               |
| 6月  |                           | 山の特別展準備作業                |                               |
| 7月  |                           | 山の特別展準備作業                | 焼山講演会・特別展開催                   |
| 8月  |                           |                          | 山の特別展開催                       |
| 9月  |                           |                          | 山の特別展開催                       |
| 10月 | 高校・地元との打合せ                | 地元とツアー内容の検討、<br>高校での講義準備 | 高校でワークショップを開催<br>し講義内容を決定     |
| 11月 | 講義内容調整                    | 外部講師への依頼、紙芝居<br>作家との協力   | 新潟焼山を対象としたツアー<br>の実施、高校での講義実施 |
| 12月 | 講義内容調整                    | 外部講師への依頼                 | 高校での講義と紙芝居の作成                 |
| 1月  | 発表に関する打合せ、集<br>落への防災学習の調整 | 消防・気象台と防災学習の<br>内容について検討 | 高校での講義と紙芝居の作<br>成、発表資料作成      |
| 2月  | 集落への防災学習の調整               | 集落での活動準備                 | 学習内容の発表<br>集落での防災学習の実施        |
| 3月  | 集落への防災学習の調整               | 集落での活動準備                 | 集落での防災学習の実施                   |

|                 |  |
|-----------------|--|
| プラン全体の反省点・課題・感想 | コロナ禍の中での活動ということもあり、夏にかけてツアーや学校での活動が大きく制限された1年間だった。その中で、Zoomなどを活用し、ジオパークのネットワークを活用し幅広い人材と交流できたことは次に繋がると考えている。 |
| 今後の活動予定         | この活動を契機に糸魚川白嶺高校とは防災学習に関する連携協定を締結することができ、継続して学びを深めていけるようになった。早川谷の全集落を対象とした防災学習は、数年単位で実施を進めていきたい。              |

## 実践したプランの内容と成果

|           |   |
|-----------|---|
| 記入日       | 西暦 2022 年 1 月 18 日 (2022 年度のチャレンジプラン)         |
| 実践団体名     | 糸魚川ジオパーク協議会                                   |
| 実践番号      | 1   |
| タイトル      | 活火山の新潟焼山を知る！楽しむ！備える！プロジェクト<br>～糸魚川白嶺高校での実践活動～ |
| 実践担当者のお名前 | 小河原 孝彦  |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 実践にかかった金額                       | 30 万円未満   |
| 実践の準備にかかった時間                    | 1 週間  |
| 実践活動を実施した日時                     | 西暦 2021 年 10 月～西暦 2022 年 3 月                        |
| 実践の所要時間                         | 0.5 時間×10 回 = 10 時間 (講義)<br>1 時間×5 回 = 5 時間 (紙芝居作成) |
| 実践の運営側で動いた人の人数                  | 3 人   |
| 防災教育の対象者の属性                     | 高校生   |
| 防災教育の対象者の人数                     | 約 20 人  |
| 実践を行った都道府県と市区町村                 | 新潟県 糸魚川市  |
| 実践を行った具体的な場所                    | 新潟県立糸魚川白嶺高校   |
| ★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等 | Zoom などインターネットの知識がある教員や生徒<br>紙芝居の絵を高校の美術部に依頼        |

|                 |  |     |
|-----------------|--|-----|
| 達成目標            | 高校生を対象に、新潟焼山の防災学習についてワークショップや講義を実施することで、自ら主体的に防災について考え、発表できる人材を育成することでジオパークのボトムアップ活動につなげる。 |     |
| どの力を身につけようとしたか？ | 知識・技能  | 大いに |
|                 | 思考力・判断力・表現力  | かなり |
|                 | 学びに向かう力・人間性  | 大いに |

## 実践内容・方法

糸魚川白嶺高校の生徒と共に、以下の手法で実践した。

### 1 ワークショップの実施

初回、生徒を対象に新潟焼山の何を知りたいかワークショップ形式で意見出しを行い、主催者側の押しつけではない自発的な学びのきっかけを作る努力をした。



### 2 新潟焼山に関する講義の実施

生徒の興味・関心を念頭に、高校での講義を合計5回実施した。ジオパークのネットワークを生かし、新潟焼山を研究している大学教員や似たような火山を有した島原半島ジオパーク、洞爺湖有珠山ジオパークなどに講師をお願いした。これは、高校のICT設備を活用し、Zoomを利用した講義で実現した。実際に火山災害を経験した人の生の声を生徒に届けることができた。



### 3 高校生国際交流会での学習成果の発表

2月に開催された「高校生国際交流会（高知県室戸高校主催）」にて、これまで学習した内容を発表した。生徒の興味と学年バランスによって、「知る」・「楽しむ」・「備える」の3つのグループを編成し、それぞれのテーマごとに講義の内容を整理した。発表資料の作成には、5回の編集会議とGoogleクラスルームが活用された。

|                |  |     |
|----------------|--|-----|
|                |  <p>4 紙芝居の作成</p> <p>糸魚川に在住する紙芝居作家の協力を得て、糸魚川白嶺高校の美術部生徒と紙芝居を作成した。下絵と話の内容を作家や生徒と共に考え、最終的に B4 版の絵〇枚として完成させた。これをスキャンし、装丁を整えて業者に印刷を委託し、糸魚川市内の新潟焼山に関係した保育園と図書館に配付した。紙芝居は、児童向けに活用される予定である。</p> |     |
| 得られた成果         | <p>高校生を対象とした出前講座は過去にも実施していたが、①生徒を対象に新潟焼山の何を知りたいかワークショップ形式で意見出しを行う、②Zoom を活用し全国から講師をお願いする、ことができ、今までの一方的な知識の享受ではない、生徒の主体的な学びが実践できた。</p>  |     |
| どのくらい身につきましたか？ | 知識・技能  | かなり |
|                | 思考力・判断力・表現力  | かなり |
|                | 学びに向かう力・人間性  | 大いに |
| 課題・苦労・工夫       | <p>夏にかけての新型コロナウイルスの感染拡大により、高校への部外者の立入りが制限されるなど、学内での活動に制限が付くことが多くあった。学校として初めて Zoom を活用して講義を実施したが、幅広い方に講師をお願いできることから大変有意義であった。</p>   |     |

|                                |                            |
|--------------------------------|----------------------------|
| ★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について |                            |
| 関係者の名前・団体名                     | 新潟大学や島原半島ジオパーク、洞爺湖有珠山ジオパーク |
| 関係者の説明                         | 糸魚川ジオパーク協議会のネットワークを活用した    |
| 関係者の連絡先                        | 各団体の HP を参照して連絡した          |

|                                   |                    |
|-----------------------------------|--------------------|
| ★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ |                    |
| 伝えたい相手                            | 実践団体               |
| 伝えたい内容                            | 一方的ではない対話がある学びの重要性 |

|           |  |
|-----------|--|
| 記入日       | 西暦 2022 年 1 月 18 日 (2022 年度のチャレンジプラン)      |
| 実践団体名     | 糸魚川ジオパーク協議会                                |
| 実践番号      | 2  |
| タイトル      | 活火山の新潟焼山を知る！楽しむ！備える！プロジェクト<br>～地域住民との実践活動～ |
| 実践担当者のお名前 | 小河原 孝彦                                     |

|                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 実践にかかった金額                       | ほぼ 0 円  |
| 実践の準備にかかった時間                    | 1 週間  |
| 実践活動を実施した日時                     | 西暦 2021 年 10 月～西暦 2022 年 3 月                            |
| 実践の所要時間                         | 7 時間×1 回 = 7 時間 (新潟焼山ツアー)<br>2 時間×2 回 = 4 時間 (集落での防災学習) |
| 実践の運営側で動いた人の人数                  | 5 人   |
| 防災教育の対象者の属性                     | 糸魚川と集落に住む全ての人々  |
| 防災教育の対象者の人数                     | 約 15 人(ツアー)、約 40 人(集落での防災学習)                            |
| 実践を行った都道府県と市区町村                 | 新潟県 糸魚川市  |
| 実践を行った具体的な場所                    | 糸魚川市 新潟焼山山麓、湯川内集落等                                      |
| ★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等 | 新潟焼山だけではなく防災一般に関する知識<br>Zoom による遠隔講義の録画映像               |

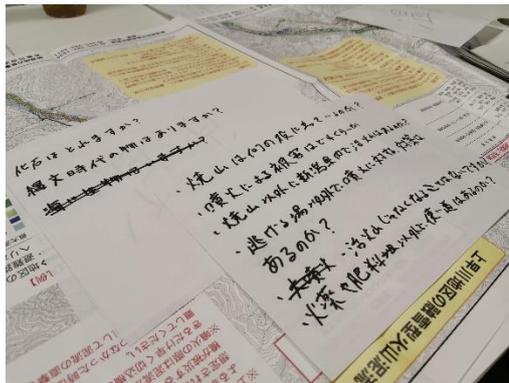
|                 |  |     |
|-----------------|--|-----|
| 達成目標            | 現状実施されている、広域(地区公民館単位)の避難訓練や防災学習ではない、集落ごとに開催し本音が言えて実践に即した形の防災学習により地域の防災力を向上すると共に新潟焼山の魅力を広く普及する。 |     |
| どの力を身につけようとしたか？ | 知識・技能  | 大いに |
|                 | 思考力・判断力・表現力  | 大いに |
|                 | 学びに向かう力・人間性  | かなり |

## 実践内容・方法

地域住民と共に考え、以下の手法で実践した。

## 1 地域の要望を聞く意見交換の実施

今後の活動の内容について、新潟焼山の山麓に位置する湯川内集落の方との意見交換を実施した。その中で、①新潟焼山の恵みとして温泉だけではなく、豊富な湧水にも着目してほしい、②大人数の場では思ったことが言いにくいいため、集落ごとに学習する機会がほしい、③火山災害だけではなく、洪水や土砂災害についても学習したい、などの意見があり、今後の活動の参考とした。



## 2 新潟焼山ツアーの実施

11月に開催した新潟焼山のツアーは、岩石や露頭の説明ではなく、火山の災害と恵みを受ける地域に生きる人に着目して実施した。当日は悪天候で湧水の見学など変更を余儀なくされた地点もあったが、①縄文時代の遺跡から分かる過去の人の暮らし、②焼山の豊富な湧水の恵み、③地域の方と一緒に作る笹寿司と山菜料理、④温泉の説明と入浴、⑤地下水となった湧水でのワサビやチョウザメの飼育、などを見学することができ、新潟焼山と共に生きる人々の暮らしの一端を体験できた。



|                |   |     |
|----------------|---|-----|
|                | <p>3 集落ごとの新潟焼山防災学習</p> <p>新潟焼山のある早川谷を対象に、集落ごとのきめ細かい防災学習を実施した。意見交換会の要望を参考に内容を決定し、新潟気象台や高校生とのオンライン講義を担当した講師にも出演を依頼した。郊外は携帯の電場状況が悪く、Zoom を利用したリアルタイムでの遠隔講義は難しいため、あらかじめ撮影した動画を編集し、放映した。現地では、動画の他に、糸魚川市消防本部の防災部局と合同で、新潟焼山の警戒レベルの改訂や土砂災害の予兆についても説明を実施した。その後、ハザードマップと集落の地図を印刷した物を活用し、実際に噴火が発生した際の避難計画について、参加者一人一人と対話をしながら検討を行った。この際に出た意見は、市の防災部局に伝達し、今後の避難計画に活かせるように注意した。</p> <p>防災学習の対象となる集落は、合計 18 箇所あり 2021 年度に全てを実施することはできなかった。今回は、最も新潟焼山に近い湯川内地区をモデルケースに防災学習を実施した。来年度以降は、児童生徒の参加の呼びかけや焼山の現地見学とあわせて継続して実施することを考えている。</p> |     |
| 得られた成果         | 地域住民との対話を通じて、新潟焼山の魅力について再発見することができた。人に焦点を当てたボトムアップのジオパーク活動が実践でき、集落ごとに新潟焼山の魅力と災害を伝える取組みが実践できた。   |     |
| どのくらい身につきましたか？ | 知識・技能   | 大いに |
|                | 思考力・判断力・表現力   | かなり |
|                | 学びに向かう力・人間性   | かなり |
| 課題・苦労・工夫       | ツアーや学習の内容について、地域住民と回数を重ねながら内容を調整したため多くの時間を費やすことになったが、ジオパーク活動が理想とする地域住民によるボトムアップの活動を実践できたと感じている。   |     |

| ★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について |                        |
|--------------------------------|------------------------|
| 関係者の名前・団体名                     | 新潟焼山愛好会                |
| 関係者の説明                         | 新潟焼山の噴煙観察や登山道整備を実践する団体 |
| 関係者の連絡先                        | 登山道整備団体として市から連絡した      |

| ★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ |                    |
|-----------------------------------|--------------------|
| 伝えたい相手                            | 実践団体               |
| 伝えたい内容                            | 火山の災害と恵みは表裏一体であること |